

あゆみ

46号



サビエル高等学校後援会

山口県山陽小野田市掃山三丁目5番1号

サビエル高等学校のモットー
他者のために、他者とともに
For Others, With Others

◆ 目次 ◆

サビエル高校の発展に 力を貸してください	後援会会長 西村 公一	・ ・ 1
希望の鐘	理事長 小濱 富美代	・ ・ 2
今こそサビエル高校での学びを	校長 松原 秀樹	・ ・ 3
ごあいさつ	同窓会会長 嶋田 千里 (35期卒業生)	・ ・ 4
誉	生徒会長 原田 茉采	・ ・ 5
2021年度教職員一覧		・ ・ ・ ・ ・ 6
先生方お元気ですか？		・ ・ ・ ・ ・ 7
サビエル高校とSDGs		・ ・ ・ ・ ・ 9
2020年度決算報告		・ ・ ・ ・ ・ 12
サビエル高等学校後援会会則		・ ・ ・ ・ ・ 13
2021年度役員一覧		・ ・ ・ ・ ・ 14
サビエル高等学校と後援会のあゆみ		・ ・ ・ ・ ・ 15
伝言板		・ ・ ・ ・ ・ 16

サビエル高校の発展に力を貸してください



サビエル後援会 会長 西村 公一

近年少子化の影響が現実的となってきて、全国的に私学の学校運営に大きい影響が出ています。我がサビエル高校も例外ではありません。数年前からの大規模な耐震化工事や教育設備の充実で多額の資金を必要としたという事もありますが、何より生徒数の減少という問題が大きく関わっています。1学年の定員105名に対して、入学生徒数が2020年度89名、2021年度60名と大きく減少しているという事実があります。学校としても管理職の県内各中学校長の訪問、教員による近隣中学校の進路指導担当や進学塾の訪問、オープンスクールの充実などの努力をしておられますが、中々実績が上がっていないのが現状です。

本校は生徒の個性や能力に応じた教育が自慢で、例え入学時は希望校合格の学力に届かない生徒に対しても、教員の熱心な教育指導で卒業時には合格ラインに到達した多くの生徒がいます。また、山口東京理科大学薬学部をはじめ全国の有名大学に指定校推薦枠を持っているのも、あまり知られていませんが大きな特長です。

英語教育も特筆すべきで、3名の外国人のALT（外国語指導助手）が生きた英会話教育の担当をしています。また国際交流も盛んで、毎年数名の外国人留学生を受け入れています。

このほか、各種ボランティア活動を通じて手助けが必要な人々に寄り添い、感動、喜びを体験することで自分自身が成長していくという、本校のモットーである“*For Others, With Others*”の実践があります。こんな素晴らしいサビエル高校に生徒が集まらないなんて不思議と思いませんか。

この原因はやはりアピール力の弱さにあると言わざるを得ません。今後はFMやマスコミを活用した広報も考えていますが、何と云ってもサビエル高校の生徒、保護者、同窓会、後援会などの力を結集して、我が校を守っていくことが大切ではないかと考えています。どうぞ、身内やお知り合いなどにサビエル高校の魅力を伝えていただき、受験に導いて下さるようお願いいたします。

学校紹介はホームページに詳しく出ていますし、パンフレットなどご希望の方は学校までお知らせくださればお送りします。

どうぞよろしく願いいたします。

2021年10月

希望の鐘

理事長 小濱 富美代



クリスマスが近づくと、「4本のろうソク」の話を思い出します。

ある部屋でろうソクが4本、静かに燃えていました。耳を澄ますと、ろうソクたちの会話が聞こえます。一本目のろうソクが言います。「わたしは《平和》です。でも、世界中には戦争や争いが絶えない。もうこのまま消えてしまった方がいいでしょう」。《平和》の炎は少しずつ力をなくし、やがて消えてしまいました。2本目のろうソクが言いました。「わたしは《信じる心》です。でも、社会には嘘があふれ、信じる心はなくなってしまった。」そう言い終わったとき、《信じる心》の灯も消えてしまいます。3本目のろうソクが言いました。わたしは《愛》です。この世は愛に渴いている人がどれほど大勢いるだろう。でも人々はごく身近な人たちさえ愛せなくなってしまっている・・・」。そう言うと《愛》の灯も静かに消えてしまいました。

そこへ一人の子どもが部屋に入ってきて、消えてしまった三本のろうソクを見つめました。子どもは、「どうして3本とも消えてしまったの?」と言うと、泣き出してしまいました。すると4本目のろうソクが優しく、しかし、力強く言います。「大丈夫、泣かないで。わたしの光が残っている限り、いつでも消えたろうソクに灯をととむことができるから。わたしは《希望》だからです。」

コロナウィルスは、私たちの生活、私たちの社会から多くのものを奪っています。そして、Covid19の問題が起きる前からあった飢餓や戦争、貧困や差別は深刻さを増し、問題が浮き彫りになっているように見えます。しかし、そんな中でも、苦しんでいる人々に寄り添い、断ち切られた絆をつなぎ、平和、信頼、愛がまだ消えていないことを証ししてくれる人々がいます。私たちも、自分のいる場でそんな希望の灯になりたいと願います。

山口市の旧サビエル記念聖堂の鐘楼にはスペインナバラ州（サビエルの故郷がある）から贈られた6つの鐘がありました。聖堂は1991年に消失しましたが6つの鐘は焼け残りました。その一つがサビエル高校に寄贈され、愛と奉仕のマリア像の横に設置されました。2001年のことだったと思います。どんな試練の中にも、私たちを守り、支えてくださる神さまがいらっしゃる、そのしるしとして「希望の鐘」と名づけられました。

暗闇の中でこそ、その灯が輝きを増すように、いつも希望である神が私たちを照らしてくださることを信じて歩みたいと思います。

今年一年間、様々な形でサビエル高校を支えてくださった皆様に感謝申し上げます。

皆様にとって新年が祝福に満ちたものになりますよう、心からお祈りいたします。

今こそサビエル高校での学びを

校長 松原 秀樹



日本の教育は、1872年の学制により、近代教育が始まり、西欧先進国の学問等を取り入れてきました。また、第二次世界大戦後、1947年に日本国憲法、教育基本法、学校教育法が制定され、新たな教育が始まりました。その間、高度経済成長期を経て、日本は、豊かな国となっていきました。そこで行われていた学校教育は、大学受験を頂点として、知識の習得が中心というものでした。それは未だに抜け出すことが難しい、そんな状況にあります。

そんな中、2019年に、日本財団が発表した「18歳意識調査」によると、世界9か国（アメリカ、ドイツ、イギリス、中国、韓国、インド等）の若者を対象に調査したところ、国や社会に対する意識は、「自分を大人と思う」「将来の夢を持っている」「社会を変えられると思う」「解決したい社会議題がある」「社会問題について友人等と積極的に議論している」等、全ての項目で、日本は最下位でした。この数値が、日本の高校生を象徴していると仮定するならば、未来はとても心配です。

およそ10年ごとに改訂される「学習指導要領」は、時代が変わる中で、それぞれの時代が学校教育に求めるものを示しています。2018年に告示された今回の「学習指導要領」によって、これまでの教育が大きく変わろうとしています。受験戦争に特化した表面的な「知識・技能」（コンテンツ）を身につけても、社会に出てから役に立たないので、本物の「資質・能力」（コンピテンシー）を持った人間を育成しよう。「知識から能力へ」と教育の重点を変える。ということですが。

新学習指導要領の改訂の根幹にあるのは、コンテンツベースから、コンピテンシーベースへの転換です。それは「何を教えるか」から「何ができるようになるか」という転換であり、さらに言うと、主語の転換です。「何を教えるか」の主語は「教師」ですが、「何ができるようになるか」の主語は「生徒」です。要するに、生徒を主人公として捉えようということです。

本校では、こうした取組は、「アクティブ・ラーニング」や「ルーブリック」を通して、すでに取り組んできています。加えて、本校の優位性は、建学の理念「愛と奉仕に生きる」の下、キリスト教を教育の基盤として生徒の育成をしていることです。キリスト教の人間観は、「人間は、一人ひとりが神に愛されたかけがえのない存在で、その存在価値は、人との比較や競争によって、優劣が生じるものではなく、この世に生きているだけで、無条件に価値がある」というものです。その事を基に、「自分を含めすべての人を大切にすることが、本当に幸せな人生を歩むために欠かせない」ということを、生徒には、折に触れ伝えていきます。

こうした人間観に基づく「深い精神性」を柱として、「確かな学力」と「未来への志」を育むため、宗教の授業や宗教行事等を通して心を育みながら、また、様々な体験や学習を通して、「主体的に取り組む学習姿勢」や「問題解決能力」を磨き、「新しい時代に求められる教育」に取り組んでいます。

ごあいさつ



同窓会会長 嶋田 千里（35期生）

サビエル高校同窓生の皆様におかれましては、まだまだ気の抜けない状況のコロナ禍におきましても益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

コロナウィルスの状態も一進一退しており状況が良くなった兆しが見えたとともに、次の第4波や5波の感染拡大となり気の抜けない日々が続いております。早くこの状況が落ち着き、安心してマスクを外して外出ができる日々が戻ってくることを祈るばかりです。

さて、今年は私事ですが同級生の子どもがサビエル高校に入学いたしました。思い返せば同級生の中にも親がサビエル出身という生徒がいました。親子2代、また、3代でサビエル高校に入学し、サビエルの精神を受け継いでいくことを本当にうれしく思います。また、親子で同じ先生の授業を受けるという醍醐味もサビエル高校ならではの楽しみではないでしょうか。

あゆみの16ページにも詳細が記載されておりますが、サビエル高校では「サビエル高校ラヂオ倶楽部」というラヂオ番組を地元ラヂオ局のFM スマイルウェーブで放送される運びとなりました。この番組は学校生活にまつわる様々なことをサビエル生の生の声を通して皆様にお届けするものです。このあゆみが皆様のお手元に届く頃にはすでに第一回目の放送が終わっております。インターネットでも配信されますので同窓生の皆様もぜひお聞きください。詳しくはサビエル高校ホームページのラヂオの特設ページをご覧ください。

また、各方面でご活躍されている卒業生の皆様に番組にご出演いただくようお願いにあがるかもしれません。同窓生の皆様の進路、その後のご活躍を共有いただければ、在校生またはこれからサビエル高校を目指そうとしている中学生の皆さんの将来の可能性や視野を広げることにつながると信じております。インターネットまたは電話を通してのご出演も可能ですのでその時は是非ご協力お願いいたします。海外にお住いの同窓生の皆様も大歓迎です。ご出演の自薦・他薦は下記メールアドレスまでよろしくお願いいたします。

終わりに、来年はサビエル高校創立60周年の節目の年となります。コロナウィルスの影響により式典を行ったり、同窓会を行ったり等の祝賀行事の予定は現在のところ未定となっております。Facebookでの発信はコロナの状況に左右されませんので60周年記念に関連する事を発信してまいりますので是非フェイスブックのサビエル高校同窓会ページのフォローをお願いいたします。

同窓生の皆様そして世界中が健康で良い年となりますよう心よりお祈りいたします。

〒756-0080

山口県山陽小野田市掃山三丁目5-1

メールアドレス info@xavier.ed.jp

サビエル高等学校 同窓会

TEL 0836-83-3587

フェイスブック サビエル高校同窓会ページ

<https://www.facebook.com/>

サビエル高校同窓会-190151575055076



誉

生徒会長 2年 原田 菜采

今年度の生徒会スローガンは「誉」です。この漢字には、いい評判、名誉という意味があり、人々が口を揃えて褒めることを表しています。また、楽しむという意味も込められています。生徒同士でお互いが褒め合い、認め合う。コロナ禍でも、感染対策を徹底し、工夫を凝らして楽しむべき時に楽しむ。サビエル高校のみんななら、そのような環境を作ることができると思います。笑顔と称賛であふれ、一人ひとりがサビエル生であることに誇りを持てるような学校にしていきたいという思いを込めて、このスローガンを掲げました。

今年度は全校をあげて、SDGsのバッジを胸に、学校生活の様々な場面でSDGsを意識して活動に取り組んでいます。SDGsのすべての目標を達成するには、一人でも多くの人々の力が欠かせません。例えば生徒会執行部では、生徒総会で出た意見をもとに、ジェンダーフリーを実現できる制服について話し合い、男女で統一されたデザインのブレザー、女子のス



ラックスと男子のスカートの導入を学校に提案しています。他に、ペットボトルキャップの回収やコンタクトレンズの空ケースの回収に取り組んでいる有志のグループもあります。文化祭では、模擬店でのリサイクル資源の活用等の工夫や、ミャンマーのクーデターに関する発表などがありました。私たちができることから積極的に取り組んでいます。

新型コロナウイルスの影響でいくつかの行事は延期や規模縮小になりました。また、普段もグループワークの制限や昼食時の黙食などがあります。私たちが楽しんできたこれまでのような学校生活は、どんどん遠のいているかもしれません。しかし、そんな状況でも、健康観察、手洗い・うがい、換気・消毒を徹底して安全に過ごせるように最大限の努力を重ね、世界で起きていることをしっかりと把握し、自分のこととして捉えて行動しています。この経験は、サビエル高校を卒業してからも役に立つものだと思います。スローガンで掲げたように、認め合い、褒め合いながら努力し、どんな状況でも最大限に楽しめる学校にしていきたいです。

2021年度 教職員一覧

職名	担当	氏名	職名	担当	氏名
理事長		小濱 富美代	教諭	英語	梅岡 克典
校長		松原 秀樹	教諭	英語	相本 憲一郎
副校長	美術	友 廣 洋	教諭	英語	野口 美奈子
教頭	理	江藤 正和	非講	英語	外木 仁・ノ・ケル
常講	国語	大曲 多佳子	非講	英語	加比 夕・アビリア
教諭	国語	吉村 一希	非講	英語	石ノノ・ワカス
教諭	国語	黒崎 貴史	非講	家・情	原 真美子
非講	国語	大曲 信介	養護教諭		伊藤 亜希子
教諭	社会	濱 寄 豊	ｽｸｰﾙｶﾝｼﾞﾗｰ		大石 英史
常講	社会	山本 清明	ｽｸｰﾙｶﾝｼﾞﾗｰ		岡本 博子
教諭	社会	柏田 直人	非寮務		田中 由佳
非講	宗教	ワク・ノエリ	非寮務		高須 知世
教諭	数学	酒井 めぐみ	非寮務		市山 野々花
教諭	数学	川田 康二	非寮務		平山 鈴花
常講	数学	泉 信太郎	事務長		井上 光義
常講	数学	末益 敬之	事務		福田 信子
常講	理	檜 垣 毅	事務		灘吉 直美
教諭	理	東野 由起子	寮務・事務		伊関 加代子
教諭	保体	種田 由紀恵	非事務		今井 美和
教諭	保体	錦 織 豊	校医		瀬戸 信一朗
非講	音楽	時繁 順美	校医		田中 裕基
			薬剤師		松垣 裕明

※ 凡例

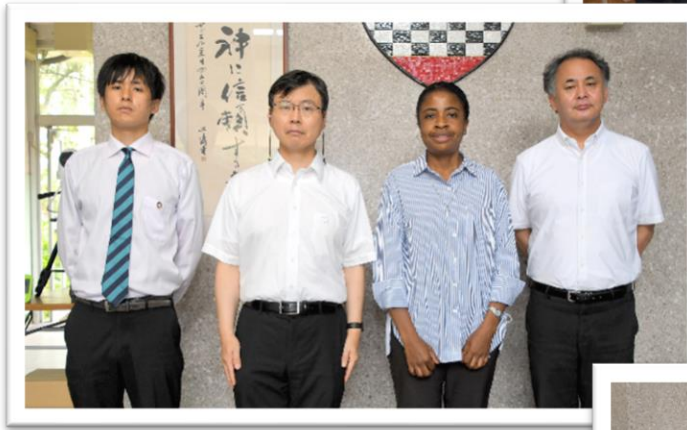
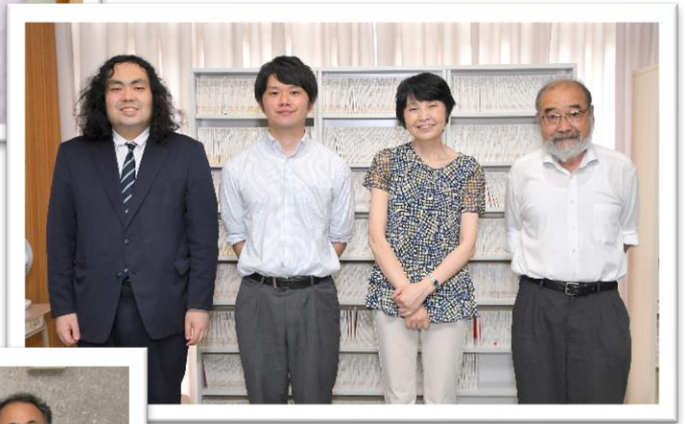
常勤講師：常講 非常勤講師：非講

家庭：家 情報：情

先生方お元気ですか？



上から 芸術・家庭
外国語
数学
理



上から 保体・養護
国語
社会
事務
寮

サビエル高校とSDGs

“SDGs”（エスディー・ジーズ）をご存知ですか？ 全世界で取り組むユニバーサル（普遍的）な目標とされ、17のゴール・169のターゲットから構成されており、国や地域、企業なども盛んに取り組んでいます。

SDGsの詳細はこちらをどうぞ！ →



17のゴール（目標）ですが、皆さんにはお馴染みの言葉が多いのではないのでしょうか。これらにはサビエル高校がボランティア活動や国際的支援活動などを通して開校当初から地道にずっと取り組み続けてきたことがたくさん含まれていますね。

サビエル高校では今までの取り組みに加え、より充実した活動を目指して今年度より学校全体でこの“SDGs”を積極的に進めていくことになりました。具体的に少しご紹介します。

SDGsの活動を始めるにあたって、まず、生徒、教職員全員の大きな一つの目標として17のゴールの中から、No.4の“質の高い教育をみんなに”を選びました。そして、さまざまな社会の課題とSDGsとのつながりを知り、理解を深め実践していく取り組みを始めています。また、授業では、SDGsに係った内容を積極的に取り入れるようにしたり、学校行事では、生徒たちが17のゴールから自由に選んで目標を決め、知恵を出し合いながら取り組んでいます。さらに、生徒有志によるグループでも新しい取り組みが始まっています。

初年度の今年度は、SDGsに関してできそうなことはどんどんやってみようという“挑戦”から始めて、2年目以降の体系的な活動につなげる予定です。そして近い将来、一人ひとりがサビエル高校での体験をもとにSDGsを実践できる人になって欲しいと考えています。

SDGsに関連する授業内容や各教科での取り組みを簡単にご紹介します！

保健科では特に環境衛生活動や環境保健の分野がSDGsにつながりますね。

外国語科ではマララさんのスピーチの英文を読んでパキスタンの教育環境について知り、日本の教育問題について自分自身の考えを英語でプレゼンテーションしてもらいました。

社会科では歴史における女性権利拡大やジェンダー平等などがあてはまりますね。とくに『現代社会』では環境・南北問題・人権など持続可能な世界を築くための学びが多いと思います。

理科では特に生物においては生態系が地球温暖化の影響を大きく受けるため、SDGsに係るテーマが満載です！



『現代文』はSDGsに関する評論文の宝庫！SDGsを学びながらしっかりと読んで自分の考えを的確に表現できるようになるといいですね。

家庭科は生活に密着した教科だけにSDGsにつながる内容は多いですね。各家庭でのSDGsを意識した生活の工夫をiPadでレポートしてもらっています。



○文化祭での取組み

今年度の文化祭は、新型コロナウイルス感染症対策のもと日程や規模を変更して7月に行われました。

① カリタス部によるミャンマー国についての発表（ゴール 16）

昨年11月にサビエル高校へやって来た留学生のモンさんの出身国でもあるミャンマーは、クーデターによる国軍の政権掌握で大きく揺れ、国民は不安な日々を過ごしています。他の留学生が予定どおり3月に帰国する中で、モンさんは危険を回避するために一人サビエル高校に残り、留学生生活を続けていました。サビエル高校では“ミャンマーに平和を！モンさんとともに”というキャッチフレーズでミャンマーについてより理解を深め、各クラスでホームルームの時間に「平和の祈り」を行っていました。モンさんは今年の8月に無事帰国できましたが、ミャンマーへの理解は今年度の11月にある『平和週間』まで続けていく予定です。

② 模擬店の実施において（ゴール 12）

作り過ぎや売れ残りなどをなるべく減らし、会場設置なども含めてゴミを出さないようなしっかりとした計画的な運営をおこないました。

○オープンスクールでの取組み（主にゴール 12、14）

参加してくれた中学生へ配布するお土産の飲み物をペットボトル容器から紙製容器、缶入りに変更し、プラスチックごみの削減を行いました。この活動によりプラスチックごみの削減は地球を守ることにつながるということを再確認できました。また、印刷物においてもなるべくムダを省くように努めました。

○生徒会の取組み（主にゴール 12、13）

使い捨てコンタクトレンズの空ケースを集めて、コンタクトレンズ製造会社に送る活動を始めました。空ケースはリサイクルされて再生ポリプロピレンとなり、他の商品に生まれ変わります。ゴミとして燃やす量も減るので、CO²削減にもなります。

○カリタス部の取組み

- ・山陽小野田市長に向けてのSDGsに関するプレゼンテーション
(主にゴール 8、9、11)

小野田青年会議所より山陽小野田市内の高校 4 校に向けて、高校生の目線で SDGs に関する何らかの提案を山陽小野田市長に呼びかけてみませんか？との企画のお話があり、カリタス部が挑みました。

各校で様々な提案がありましたが、サビエル高校では、山陽小野田市内の高校 4 校合同文化祭を開催し、山陽小野田市の特産品の普及を目的とした紹介と販売、ゆるキャラの募集の提案をしました。

市長さんに実際にプレゼンできればよかったのですが、コロナ感染予防のため、予定を変更して青年会議所の方の録画撮りとなりました。後に録画をご覧になった市長さんは、『興味深い視点によるものが多く、いくつかは実際に前向きに検討していきたい』との回答だったと青年会議所の方からお聞きしました。

○生徒有志のグループによる取り組み

生徒自身に“コロナ禍でボランティア活動が思うようにできなくなった”という思いがあり、自らいろいろと探りながらできることから活動しています。

1. ペットボトルキャップを集めて
開発途上国の子供たちにワクチンを送ろう！
(主にゴール 1、12)

学校校内にペットボトルキャップの回収箱を数ヶ所設置しています。集まったキャップを選別し、きれいにしたうえである団体に送ると、リサイクル代がワクチンとなり、アフリカに送られるという仕組みです。選別したキャップの汚れを重曹水と歯ブラシで落とす作業は大変ですが、頑張って取り組み、107,070 個のキャップを届けました。



2. ミャンマーに絵本を送ろう！
(主にゴール 1、4)

日本の絵本にビルマ語の訳文シールを張って送る活動に参加しています。

絵本を一度も読んだことのない子どもたちに絵本を楽しんでもらうと同時に、絵本が読み書きの習得の助けにもなります。紛争や貧困の中で過ごしている人々には、識字＝命を守ることにつながります。(地雷原の看板の読み取りや薬の処方箋など字が読めないということが原因で起きる事故や弊害が隣合せなのです。)

作り手の気持ちが伝わるように絵本に記名ができるので、留学生のモンさんに教わってビルマ語で自分の名前を書きました！

持続可能な世界を築くためには、まずは一人ひとりが考えて行動を起こすことが大切ではないでしょうか。

みなさんも一緒に始めてみませんか？

新聞を発行して SDGs に関する取り組みを紹介しました！

The image shows a newsletter titled "SDGs news letter". The cover features a red header with the title and a small illustration of a book and a recycling symbol. The content includes:

- 絵本を届ける運動とは…?** (What is the book delivery movement...?) - A section about sending books to children in Myanmar, mentioning the Myanmar Children's Library and the goal of providing books to children in conflict zones.
- 「絵本を届ける運動」とは、子どもが足りない地域に、日本の絵本を寄贈することによって実現されています。** (The "book delivery movement" is realized by donating Japanese picture books to areas where children are in short supply.)
- 質の高い教育を目指して** (Aiming for quality education) - A section about the importance of literacy and education, especially in conflict zones.
- SDGs 目標 4番** (SDG Goal 4) - A section about the goal of quality education.
- 3つのステップ** (3 steps) - A list of steps: 1. 絵本に親しいシールを貼る (Stick a sticker you are familiar with on the book), 2. 集まった絵本は運べ! (The collected books can be shipped!), 3. 子どもたちの笑へ (To the children's smiles).

At the bottom right, the name "数井ひまり 牧野夏実" (Himari Kanai, Natsuki Makino) is written.

2020 年度決算報告

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

◎収入の部	会費・賛助金	1, 298, 000円
	預金利息	3円
	合 計	1, 298, 003円
◎支出の部	会費・賛助金振込手数料	48, 276円
	振込取扱票印字サービス料	4, 103円
	封筒他消耗品	28, 580円
	奨学費	253, 200円
	あゆみ45号印刷費	118, 800円
	あゆみ45号郵送料	377, 895円
	送金手数料	1, 430円
	合 計	832, 284円

*前年度より繰越	2, 528, 150円	
*本年度収支差額	465, 719円	
*次年度へ繰越	2, 993, 869円	
*次年度繰越金の内訳	郵便振替	2, 605, 709円
	普通預金(山口銀行)	388, 160円
	合 計	2, 993, 869円

上記のとおり相違ありません。

2021年 5月 26日
サビエル高等学校後援会

会 長	西 村 公 一	印
監 事	安 部 良 枝	印
監 事	西 村 道 子	印

同窓会 会計報告

2021年3月31日

今回残高(普通預金)	3, 915, 118円
前回残高	3, 666, 085円
57期生入会金	249, 000円
預金利息	33円

サビエル高等学校後援会 会則

(名 称)

第1条 本会は、サビエル高等学校後援会と称し、事務局を同校に置く。

(目 的)

第2条 本会は、サビエル高等学校の方針に則して物心両面よりこれに協力・後援することを目的とする。

(事 業)

第3条 前条の目的達成のため、次の事業を行う。

1. 同校教育の理解と協力
2. 同校の経営及び施設の維持・改善に対する協力
3. 年一度同校のあゆみ(報告書)を発行

(会 員)

第4条 本会の趣旨に賛同の同校卒業生保護者及びサビエル会員と同校卒業生をもって会員とする。

(会 費)

第5条 会費は、年間一口(1,000円)以上を拠出するものとする。

(役 員)

第6条 本会は、次の役員を置く。

会 長 1名 副会長 2名 評議員 若干名
監 事 2名 会 計 1名 顧 問 若干名

(役員の仕事)

第7条 前条の各役員は、それぞれ次の任務を持つ。

1. 会長は、本会を代表し、会務を処理し、会議の長となる。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に支障あるときは、その職務を代行する。
3. 評議員並びに会計・監事は、役員会を構成し、会長の諮問にこたえる。
4. 会計は、本会の会計を担当する。
5. 監事は、本会計を監査する。

(役員を選出)

第8条 会長・副会長・評議員及び監事は、総会において会員の中より選出し、会計は会長が任命する。ただし、顧問には、会長職経験者をあてる。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は、2か年とする。ただし、再選を妨げない。

(総 会)

第10条 総会は、毎年一回開催する。

(会計年度)

第11条 会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

付 記

この会則は、昭和49年9月28日より実施する。

2021年度役員一覧
(敬称略)

(※は卒業生)

会 長	西村 公一	
副会長	升本 猛	嶋田 千里※
会 計	野口 美奈子※	
監 事	安部 良枝※	西村 道子※
評議員	厚見 光雄	石部 常登
	原木 雄詩	松本 敏子
	柳屋 幸明	石田 修祥
	中島 裕一	竹本 登
	政倉 結衣※	磯中 唯※
	國吉 玲奈※	池田 穂乃香※
	武原 里菜※	青池 あまね※
	内村 真唯※	越野 裕理※
顧 問	吉屋 ひとみ※	
事務局	今井 美和※	

＜サビエル高等学校と後援会のあゆみ＞

1974(昭和49)年 9月

当時の卒業生保護者の方々により設立される。

初代会長 広沢道彦様のご指導の下、会則が整備、活動が開始される。

1975(昭和50)年 6月

「あゆみ」第1号発行

2002(平成14)年10月

創立40周年記念式典及び記念事業内容

- ・男女共学導入に伴い、男子手洗い増築工事 ・学校、寮とも空調完備
- ・コンピュータ教室設置(改造) ・電気容量増設
- ・駐輪場新設及び交通安全改良工事 ・給水改善工事 ・武道場新築工事

「あゆみ」第27号発行

2012(平成24)年10月

創立50周年記念式典並びに教育講演会

耐震補強工事予定(本館・サビエル寮・体育館・第一特別教室棟)

「あゆみ」第37号発行

2014(平成26)年1月

理事長 Sr ヲア フェルナゲス療養のため辞任、新理事長として栗田陽二郎校長兼任

サビエル寮・体育館・第一特別教室棟の耐震補強工事終了

「あゆみ」第38号発行

2015(平成27)年3月

本校舎耐震補強工事終了

「あゆみ」第39号発行

2016(平成28)年4月

理事長兼任校長栗田陽二郎氏が退任、新理事長として Sr 小濱富美代、新校長として松原秀樹氏が着任

2016(平成28)年8月

サビエル寮のリニューアル工事完成

2017(平成29)年4月

サビエル寮のトイレ・シャワールーム改修工事完成

2017(平成29)年8月

21世紀型教育に向けてのITC 機器・設備導入

2021(令和3)年12月

「あゆみ」第46号発行

1962(昭和37)年4月、山陽小野田(旧小野田)市掃山の丘でサビエル高校は小さな産声を上げました。

それから半世紀、神様と多くの方々に支えられ、卒業生は5,141名を数えるまでになりました。

建学の理念「愛と奉仕の精神」、「他者のために学び、祈り、行動する」は卒業生・在校生を問わず一人ひとりの中で培われ、社会や家庭で実を結び、次の世代へと受け継がれていくことでしょう。

後援会と同窓会の皆様、これからもご支援くださいますようお願い申し上げます。

伝言板

この「伝言板」のコーナーは同窓生の皆さんの情報交換の場としています。後援会では伝言板に掲載する記事を募集しています。掲載内容は一般に周知したいこと等を原則としています。

サビエル高校のラジオ番組が始まります！

サビエル高校の先生方や生徒さんが



のラジオ番組



『サビエル高校ラヂオ倶楽部』に出演して

サビエル高校の魅力をたっぷりと語ります！

FMスマイルウェーブは山陽小野田市のコミュニティ FM 放送局です。

周波数は、89.7MHz。(宇部市、下関市、美祢市の一部でも聴取できます。)

記念すべき第1回オンエアは 11月16日(火) 18:00~18:55

今後、毎週第3火曜日にオンエアを予定しています！

ぜひお聴きください！

ラジオ持っていない！ 😞 と思われた方、ご安心ください！

「サイマル放送」(インターネット配信)でパソコンやスマートフォンからお楽しみいただけます。

インターネットでの聴取方法

【1】特設ページにアクセスして聴く。

【2】サイマルラジオのアプリ(FM++(プラプラ))で聴く。

<https://fmplapla.com/fmsunsunkirara/> →



聴き逃した！ 😞 という方、大丈夫です！



サビエル高校ホームページのラジオ特設ページへどうぞ！

← アーカイブがあります！

<http://www.xavier.ed.jp>

周辺地図



路線図



XAVIER HIGH SCHOOL
サビエル高等学校

〒756-0080 山口県山陽小野田市埴山三丁目5-1
TEL0836-83-3587 FAX0836-83-3439
<http://www.xavier.ed.jp> E-mail: info@xavier.ed.jp